

手芸倶楽部新聞

2014年
8月12日号
第16号



新メニュー紹介

新メニュー登場。今回は作品展やバザーを意識して、巾着袋を作りましょう。一重ですが、縫い代をきちんとして縫いにしてしまつてある、実用性の高い巾着袋です。アクセントにちよつとした手仕事を加えようと思ひ、アップリケとテロリアンテープを用意しました。試しに利用者さんと一個ずつ作ってみましたよ。単純なアップリケだけど、あるとちよつとかわいらしいでしょう？バザーに出したり、さくら園にいらっしやるお客様にプレゼントできたらと思ひます。でも、利用者さんたちは、まずは自分の分を作るのです。一生懸命、一针ごとに心を込めてつくるから、本音はだれにもあげたくないみたいです。

伊藤機能訓練指導員

秋には作品展の展示会を行う予定です。皆さんの力作を多くの人に見ていただけたらと思ひています。作品を作ること、見ることも脳に良い刺激です。

次回は九月十八日(木)地域交流室にて十五時より開催予定です。お楽しみに。見学も大歓迎です。

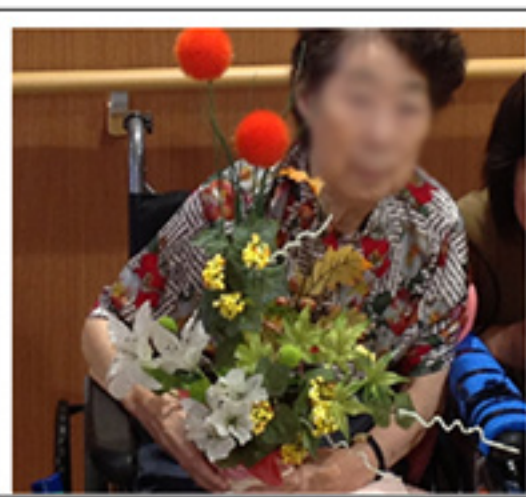
手芸のコツ

頭の中ではきれいに縫うイメージができてゐるのに、実際に縫うと、思うように縫えない・・・それが稀くて縫い物をしなくなってしまうケースは多いようです。上手くできなくなってしまうのは悲しいこと・・・しかし、できないわけじゃない。縫えるところからやってみましょう！そんな風に、前向きな気持ちになると、楽しくできるようです。

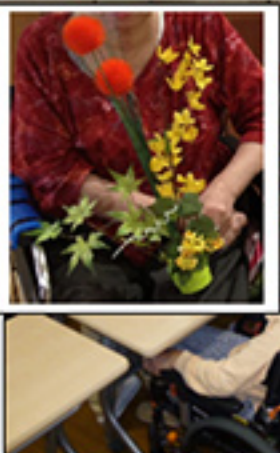
「作り方をすぐ忘れる」とおっしゃる利用者さん、もう同じデザインのパーチを七個も作りました。毎回「忘れちゃうのよね。また教えてね」と職員を頼ってくれます。もちろん仕上げるまでお付き合いしますよ！



最初のころに比べると、サイズもぐんと大きく、立派なアレンジメントができあがっています。以前はただやみくもに突き刺していたのに、花を選び、バランスを見て、活けられるようになってきた方も！



第十六回の手芸倶楽部もたくさんのご参加をいただき、本当にありがとうございます。造花フラワーアレンジでは、ポンポン菊のような大胆な造花が入荷！数が足りなくて、取り合いになる場面もありません。あとは、可憐なヤマブキと、赤くなる前のもみじ、ホップの花や山葡萄もありました。初秋らしいアレンジメントを楽しんでいただきました。



編集後記：次回の手芸倶楽部まで一ヶ月程あいてしまうことになりました。月に二回実施が基本なのですが、今月だけは担当が別の行事の準備に追われ、どうしても都合がつかせませんでした。代わりに、ミニミニ手芸倶楽部を4丁目3番地のユニットフロアで随時開催しています。フラワーアレンジメントもできますよ。突然「今日、お花やりたいなー」「縫い物したいなー」とおっしゃる利用者様がいましたら、まずはその日手芸活動ができるかどうか、内線431までご連絡ください。可能な限り対応させていただきます。(平戸)